

保険証の廃止撤回、存続を求める

6月定例会の一般質問で、吉田修議員は、①マイナ保険証問題、②天体観測施設（天文台）の整備など、赤星ゆかり議員は、①気候変動のもとでの浸水対策、②富山駅利用者の利便性向上・南富山駅周辺のまちづくり、③オーガニック給食の展望などについて取り上げました。

吉田市議
一般質問

藤井市長「国に保険証廃止延期を 求める考えはない」

求める考えはない



吉田おさむ議員（6/20 本会議）

主な質問と答弁は…

◆本市のカード申請状況（4月30日現在）…申請79・0％、交付は69・9％で全国平均を上回っている。

◆マイナ保険証の利用登録数（4月18日現在）…国民健康保険しかわからない。国保加入者の51・4％（3万3252人）

◆本市で判明しているトラブル…ポイント付与間違いが1件。保険

吉田市議は、「マイナンバーカードをめぐるトラブルが続出。国民の不信と不安が増大している。準備不足と周知不足の中で拙速に推進した政府の責任は重大」と指摘。

証情報の間違いが1件。

63％の医療機関で
トラブル発生

県内の医療機関でもシステム導入が原則義務化され運用が始まっています。吉田市議は、

「県保険医協会」の調査結果を紹介。63％の医療機関でトラブルが発生。保険加入が確認できず「全額負担」を求めたケースや、他人の情報が「ひもづけ」されていた

ケースもありました。◆カードの取得が困難な人などに対して、今の保険証と同様に「資格確認書」を届けよ…国からの具体的な通知等にもとづき対応する。

今の保険証の廃止 反対が70％超

反対が70％超

吉田市議は、何ら不都合なく使えている保険証を廃止して、事実上カードの取得を強制する手法が、政府がめざす「人に優しいデジタル化」なのかと厳しく批判。世論は「保険証を残せ」が多数です。藤井市長にたいして、今の保険証を来年秋に廃止することを撤回し、存続を政府に求めるべきとたたきました。

◆藤井市長の答弁…

トラブルは国の責任で解決すべき。マイナ保険証は、患者にも医療機関にもメリットがあり、保険証を発行する事務負担も軽減される。本市のスマートシティとも合致する。国に今の保険証の廃止撤回を求める考えはない。

浸水対策の抜本的強化を

赤星市議
一般質問

気候変動を考慮した 「基本計画」―対策を早く



赤星議員の質問動画



赤星ゆかり議員（6/21 本会議）

は春先の気温が過去最高となり、気候変動の影響は加速度を増し、いっどこで線状降水帯が発生して豪雨被害が出るかわからなくなってきました。

住民の不安にこたえて

赤星市議は、例えば降った雨水を急激に流さない、貯留・浸透させる対策を急速に広げることが重要」と指摘。市では今年度から来

年度にかけて気候変動を考慮した新しい「富山市浸水対策基本計画」を策定中ですが、「計画」確定までにはまだ時間がかかる、公園や道路、住宅などへのグリーンインフラの導入や雨水貯留浸透施設の普及など（内水）氾濫を防ぐ・減らすための対策について、「計画」



大雨の後、小学校のグラウンドから勢よく流れ出る雨水（2023.7.13 未明）

完成前でも早期の取り組みをと、たたきました。

計画完成前にも対策実施

狩野建設部長は、「平成18年度に策定した富山市浸水対策基本計画に基づき、浸水被害を発生させないような施設整備による

学校給食無償化 求める

国への
意見書

全会一致で採択

6月定例会で、小・中学校の学校給食費の無償化を求める「国への意見書」を、全会一致で採択しました。意見書では、食料費は保護者負担とする根拠となっている学校給食法の見直しや、自治体間で格差が生じないよう国の責任で無償化が実施できるよう財政措置を求めています。

学校給食費の無償化は、全国の500近い自治体で広がっています。日本共産党会派は3月定例会で、富山市でも無償化に踏み出すことをつよく求めていました。

意見書は市議会自民党の提案ですが、少子化・子育て支援が喫緊の課題になっているこの時期での意見書は画期的です。（2面に関連記事）

オーガニック給食の 展望を開け 有機米提供へ協議中



赤星市議は、昨年12月議会に続き、有機農業への取組拡大とオーガニック給食の展望について質問しました。

昨年10月26日に東京中野で開かれた「全国オーガニック給食フォーラム」の様子を紹介。約4千人の参加で大盛況となり、全国から市町村長も40人ほど、JAの組合長も7人参加され、「JAもオーガニックでなければ生き残れない」と断言する組合長さんも。

赤星市議は「子どもたちの健康をまもり環境と経済を両

や、富山市スマートシティでのグラウンド貯留をはじめ、市民との協働による水田貯留、土壌の地区センターへの備蓄や市民への事前配布など浸水被害を軽減させる対策も併せて実施」

「さらに昨年8月の集中豪雨で大きな浸水被害が発生した地域を中心に、河川や水路の浚渫、堤防の嵩上げ

立させる有機農業が子どもたちの未来をまもる」とのべ、市の考えを問いました。

金山農林水産部長は「今年度中に有機農業の取組を拡大を目指す計画を策定する」「有機米等を学校給食へ試験的に提供するため、生産者や関係団体と協議調整を進めている」と答弁。

藤井市長も「オーガニックの農産物は非常に大切だと考えている」「学校給食の可能性についても研究したい」と答弁しました。



学校給食費の無償化を

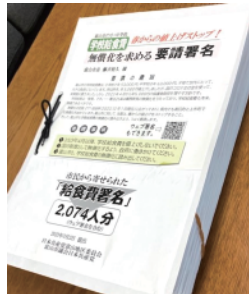
共産党
会派

2097人分の署名で要望

富山市は小・中学校の学校給食費の保護者負担を4月から年5千円引き上げを提案していました。

日本共産党会派は1月11日、負担増ストップを申し入れ、3月2日には、2097人分の署名を添えて、富山市も学校給食費無償化に踏み出すよう求めました。
市単独実施で18億円

3月定例会で、市単独で無償化した場合は18億円必要と答弁。吉田市議は、全額国費でも4千5百億円あれば実現できる。異次元の



2月に集まった「学校給食 無償化を求める」署名の束

少子化対策”をかかげる岸田政権につよく働きかけるとともに、市も無償化に踏み出すよう市長に求めました。市長は、設備費や人件費等に多額の費用を負担している、無償化は考えていないと答弁しました。ただ、5月臨時議会で、年5千円の保護者負担増は、今年度も国の交付金を使って引き上げを回避しました。



天文台の整備を

池多・三熊にあった「富山市天文台」は2018年9月から実質閉鎖。同年12月、市中心部に移転する方向が示されました。

5月31日の「検討委員会」では多くの専門家から、天文台は必要との意見が出されましたが、市は「計画は白紙」と表明しています。

天文台をつくることは明言せず6月定例会で吉田市議は、「この5年間、1ミリも動いていない」と指摘。「私も天文台は必要と考える」と述べ、市教育委員会の考えを問いました。

市教委は「例えば他県の天文台からの映像を中継放映することなどを含めて従来の計画にとらわれることなくあり方を検討していきたい」と答弁。設置の場所だけでなく天文台そのものをつくるかどうかさえ明確にしませんでした。

また、赤星市議は、市立の保育園給食や学校給食のシチューなどに、ニユージールランド産脱脂粉乳を使っている事実をただし、「県産牛乳に切り替えるべきだ」と主張しました。

古川こども家庭部長は、NZ産脱脂粉乳は厚労省が購入希望調査を行い外郭団体から購入している、使用中は現在考えていないが、県産牛乳も使用していく、と答弁しました。



継続的な支援を求める

赤星市議は2月に市内の牧場を訪問。飼料や燃料の高騰の影響を受ける畜産農家の実情をたずね、3月議会で、市に継続的な支援を要請しました。

畜産農家への市独自の緊急支援策として昨年9月補正予算の「農業用物価高騰対策緊急支援事業」、そして3月補正で電気料高騰への支援拡充を歓迎しつつ、「しかし畜産農家の実情はそれだけでは全く足りない厳しい現実」と訴えました。

えさ代が5千万円、
電気代5百万円増！

訪問した乳牛農家では、「えさ代が前年度は約1億円だったのが1.5億円に上がった」

牛乳の消費拡大に支援策

市は6月1日の「牛乳の日」に合わせて、富山駅の南北自由通路で紙パック入りの牛乳を無料で配布。小中学校が長期休みの期間に牛乳消費が落ち込むことから、8月と来年1月の毎週土曜日には市内の銭湯などで牛乳を無料提供します。

市は6月1日の「牛乳の日」に合わせて、富山駅の南北自由通路で紙パック入りの牛乳を無料で配布。小中学校が長期休みの期間に牛乳消費が落ち込むことから、8月と来年1月の毎週土曜日には市内の銭湯などで牛乳を無料提供します。

富山駅利用者の 利便性向上を！

6月議会の一般質問で、吉田・赤星両市議が、駅利用者の立場に立った改善を求めました。



を掛け改善するよう求めました。

深山活力都市創造部長は、「民間駐車場への動線であることに加え民間企業の所有地」「第一義的には駐車場運営者や土地所有者が屋根の設置の可否や地表面の補修について判断されるもの」「ご要望について、駐車場運営者等に伝えたい」と答弁しました。

屋根がなく濡れる！

富山駅舎と高架下駐車場との歩行者動線のうち一般車乗降場までは屋根がありませんが、それより西側は新幹線高架と在来線高架の間に屋根がなく雨の時は必ず濡れます。地面も水溜りができています。赤星市議は、屋根

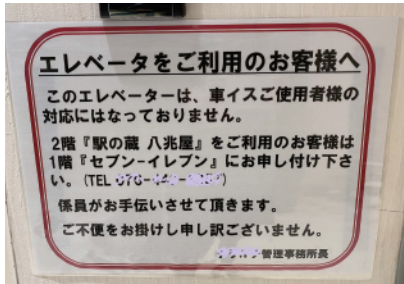
車いすで乗れないエレベーター？！

駅隣接の1階にコンビニや2階に飲食店がある商業施設クラルのエレベーターは、扉の横に「こ

トイレが遠い！

数も足りない！

また赤星市議は、「改札に入らずに利用できるトイレが遠くて少ない」「平日の駅が空いている時間帯でも市管理の西口トイレ内には順番待ちの列が」と指摘し、トイレ増設を求めました。深山部長は、駅だけでなく電鉄富山駅やマリエ、ルートなどのトイレも揚げて、「富山駅周辺のトイレはおおむね充足しており現時点での増設は考えていない」と答弁するに止まりました。



富山駅隣接の商業施設のエレベーターには、「車イスご使用者様の対応にはなっておりません」の貼り紙がしてあります。（写真は一部加工）

駅員さんと話す吉田市議 JR 高山線の富山駅ホームにて



高山線ホームに ベンチの設置を

吉田市議はJR高山線の普通列車が発車する富山駅のホームにベンチを設置してほしいという婦中町在住の利用者の要望を取り上げました。

高山線の活性化事業で沿線の高齢者の利用も増えています。ベンチのある広いホームから普通列車の乗降口まで72歩（吉田が現地確認）もあり、たとえ10分、15分でも立って待つのはつらいと言います。当局は「ホームが狭く安全の面からスペースが確保できるか難しい面がある」と考えるが、要望はJR西日本に伝えたい」と答弁しました。